

風水害

雨の強さと降り方

雨の降り方から被害の予想ができます。雨の降り方に注意し、警報や避難情報が出る前でも、危険と判断すれば、早めに避難行動をとることが大切です。〔雨量は1時間雨量(ミリ)〕

10～20ミリ	20～30ミリ	30～50ミリ	50～80ミリ	80ミリ～
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
ザーザーと降る この程度の雨でも長く続くときは注意が必要。	どしゃ降り 側溝や下水、小さな川があふれ、小規模ながけ崩れが始まる。	バケツをひっくり返したように降る 山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要。	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く) マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる 雨による大規模な災害が発生するおそれが高く、厳重な警戒が必要。

警報と注意報の種類

大雨や台風るとき、気象庁はさまざまな気象情報を発表します。気象情報がどのような状態を意味しているのか知っておくことは大変重要です。



気象庁HP

●主な防災気象情報

- 特別警報**……数十年に一度の重大な災害のおそれ著しく大きいときに出される。
- 警報**……重大な災害のおそれがあるときに出される。
- 注意報**……災害のおそれがあるときに出される。
- 土砂災害警戒情報**……土砂災害のおそれがあるときに出される。
- 台風情報**……台風が発生したときに出される。
- 竜巻注意情報**……竜巻・ダウンバースト(下降噴流)等による激しい突風が発生しやすいときに出される。

風の強さと吹き方

風速の単位m/sは、1秒間に進む距離(m)

10～15m/s未満
やや強い風

15～20m/s未満
強い風

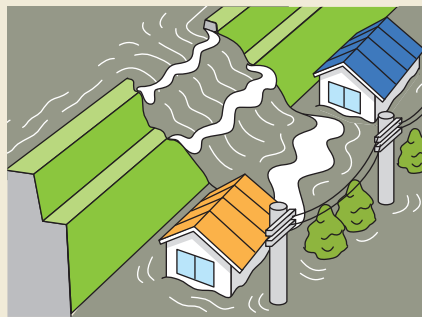
20～30m/s未満
非常に強い風(暴風)

30m/s以上
猛烈な風

はん濫の種類(洪水・内水はん濫)

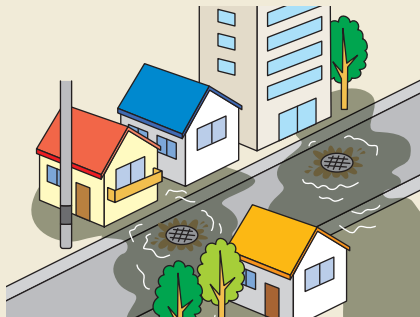
はん濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「洪水(外水はん濫)」と、街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水はん濫」の2タイプがあります。

洪水



雨水が川に集まり、川の水位が堤防を越える、あるいは堤防を決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。はん濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。

内水はん濫



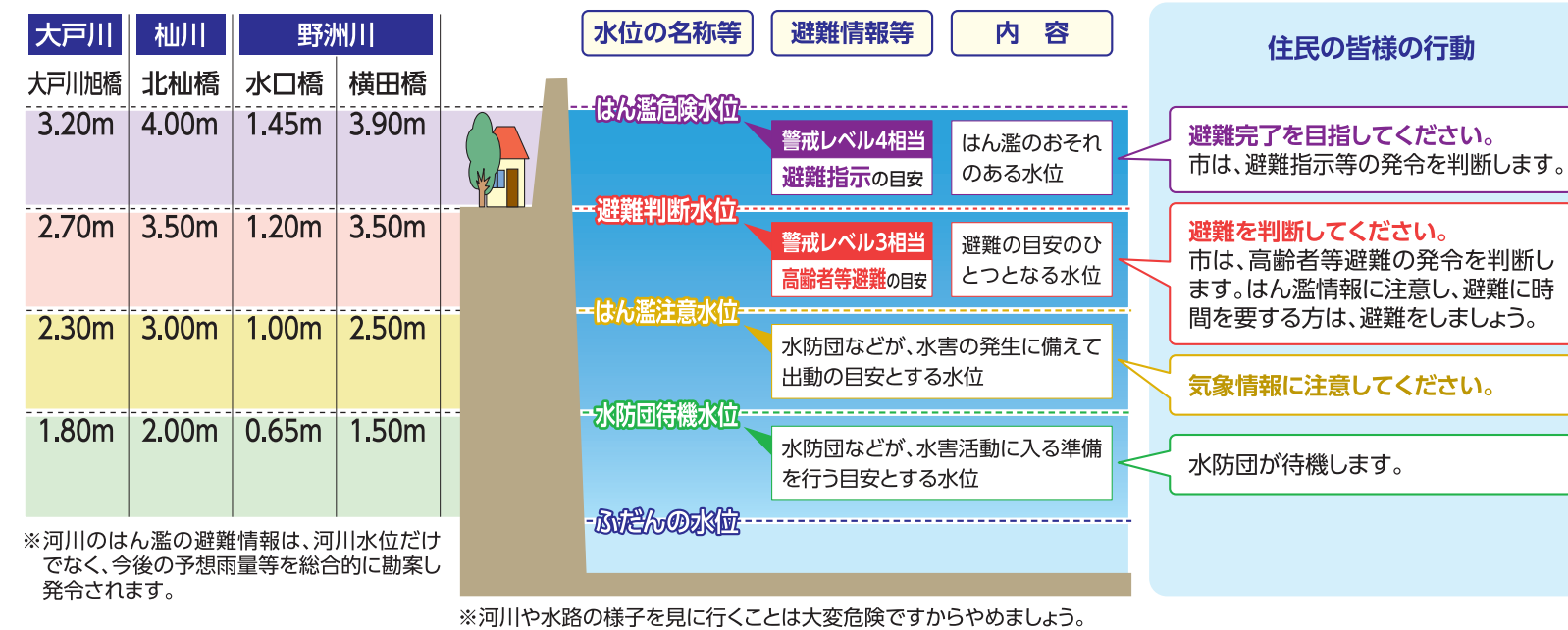
その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる水害。川のように水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

河川

河川水位情報

河川の水位情報は、避難の目安となる情報です。

滋賀県土木防災情報システム(SISPAD)



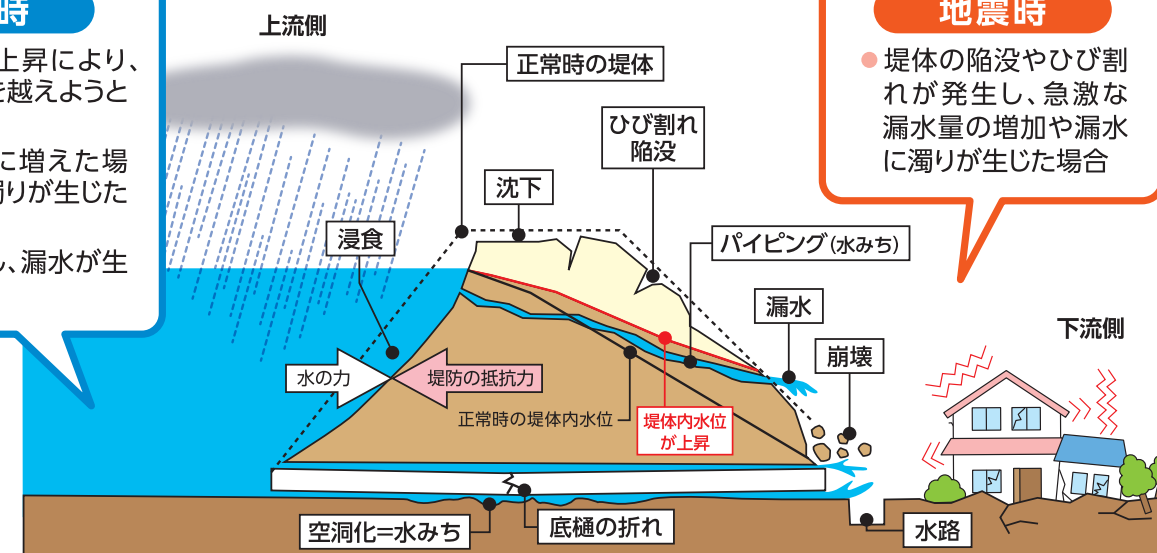
ため池

ため池が危険なのはこんなとき！

豪雨時

- 急激な水位上昇により、流水が堤体を越えようとする場合
- 漏水が急激に増えた場合や漏水に濁りが生じた場合
- 堤体が陥没し、漏水が生じた場合

上流側



地震時

- 堤体の陥没やひび割れが発生し、急激な漏水量の増加や漏水に濁りが生じた場合

下流側

ため池ハザードマップ

防災重点ため池(※)に指定された農業用ため池について、万が一決壊した場合に、地域の皆様の安全な避難行動にお役立ていただくことを目的にため池ハザードマップを作成しています。

※防災重点ため池とは、決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池をいいます。

ため池ハザードマップ、防災重点ため池については、市のホームページで公表しています。お住まいの地域のため池について、ハザードマップが作成されている場合は内容の確認をお願いいたします。

- 水害が発生するおそれがある時には、市や報道機関からの水害情報、避難情報等に注意するとともに早めの自主避難を心がけてください。
- 避難場所に避難する余裕がない場合等、状況によっては自宅の2階など高い所に避難する垂直避難も有効な手段です。
- ため池の貯水量が無くなれば、浸水は徐々に減少していきます。
- 公表されたため池が直ちに危険であることを示すものではありません。

- ハザードマップに示された浸水区域は想定のひとつであり、地震や豪雨が重なるなど、実際の災害時には想定を上回る可能性があることに留意してください。
- ため池はいつ決壊するか予測することが難しく、決壊から短時間で被害発生し、災害時にハザードマップを確認する時間が取れないことが想定されます。いざというときの避難行動のために、日頃からハザードマップの確認を心がけてください。